

「多摩川河口干潟の観察」 現地報告

東京湾生き生き研究会 大野幸正

1. 観察の概要

日時：2018年6月29日（金）10:00-13:00

場所：多摩川河口干潟（基図は国土地理院の地形図）

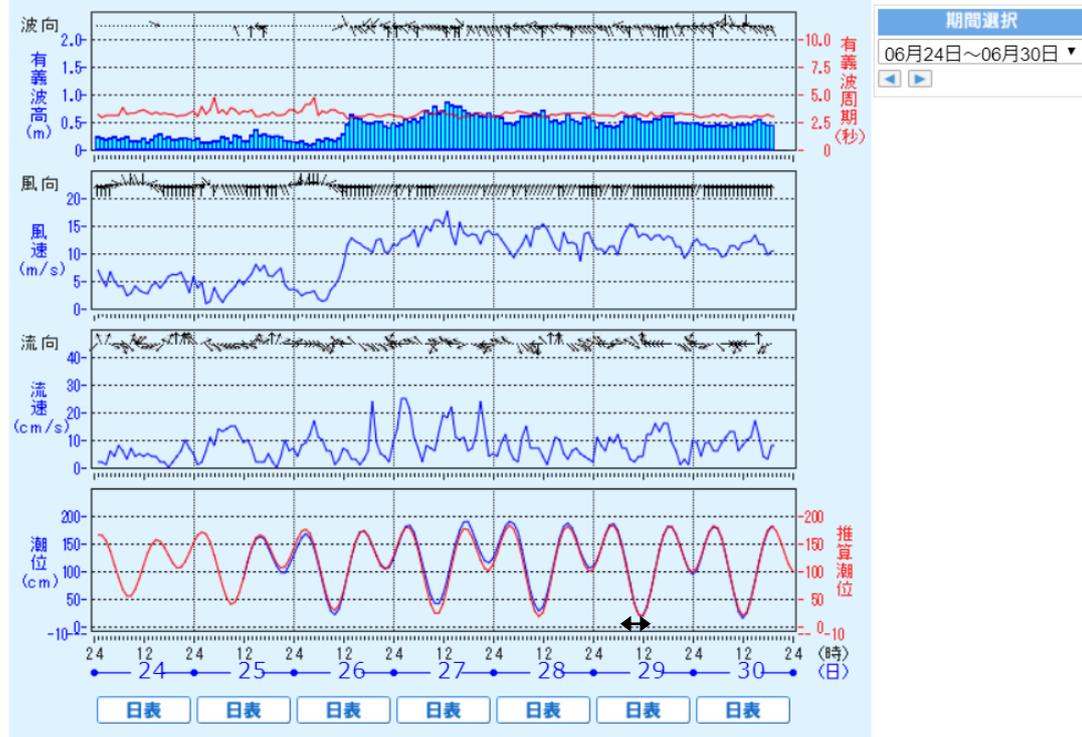
方法：干潟でのヒアリング及び徒歩採取、写真撮影

潮位：干潮時刻 11:40 (17 cm)・・・東京港管理事務所資料



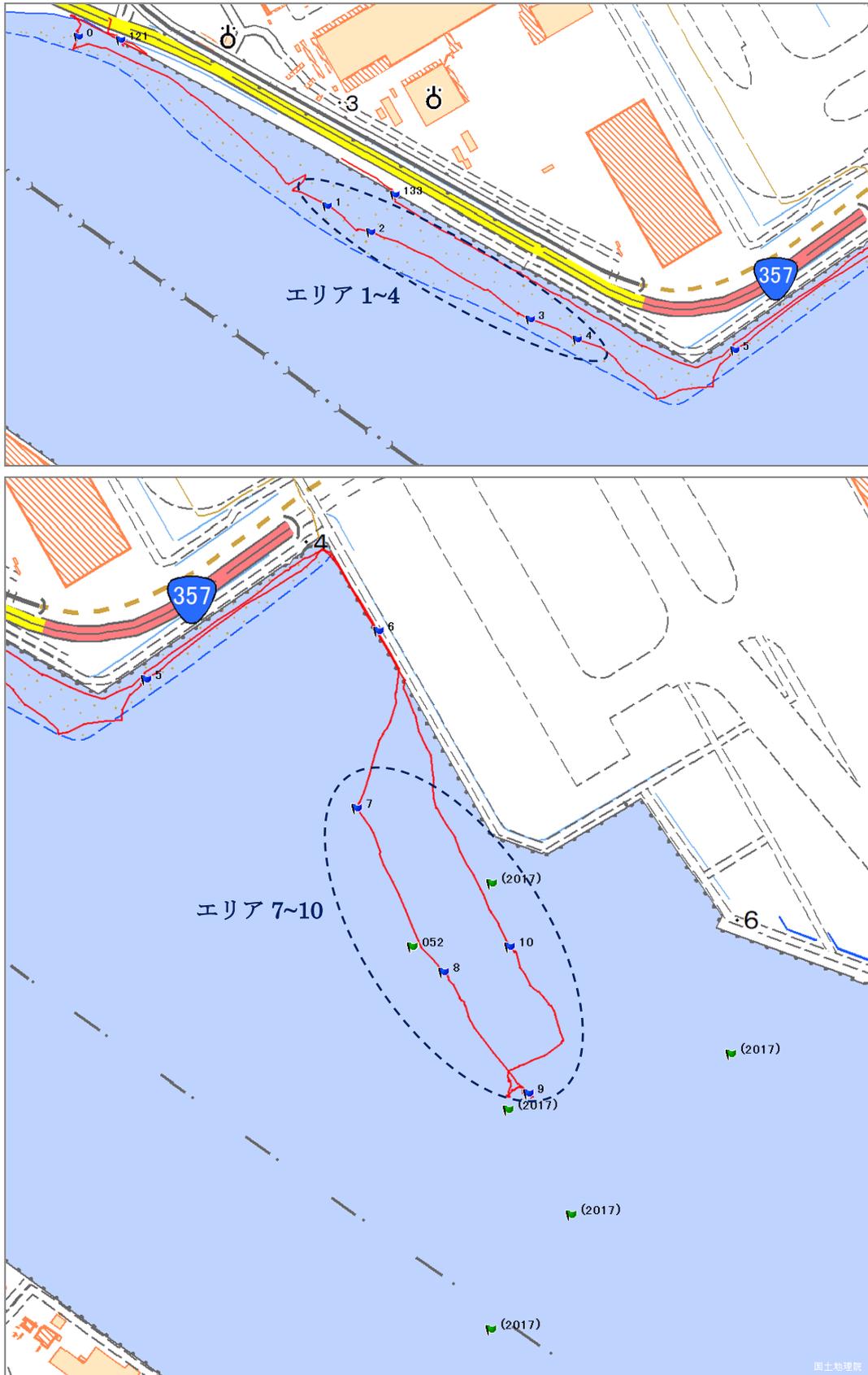
観測期間：2018年06月24日～2018年06月30日

観測地点：東京港波浪観測所



実測潮位図 (出典：東京港管理事務所)

2. 観察のルートなど



観察ルート図 (赤線は移動ルート、赤旗は観察位置、緑旗は 2017 年調査位置)

2. 現地状況

【エリア 1~4】 多摩川左岸の河口幅が広がる直前のエリアで、干出幅は 20-30m程度と狭い範囲である。熊手で砂地を掻き、タモで魚介類を確認しながら、アナジャコ捕り 2名、貝掘り 1名のお話をお聞きした。





「台風で泥が干潟に乗り、貝が死んだ」



「アナジャコは素揚げにして食べる」



アナジャコ



ヤマトシジミ



「少し下手で浸漬があり貝がいなくなった」



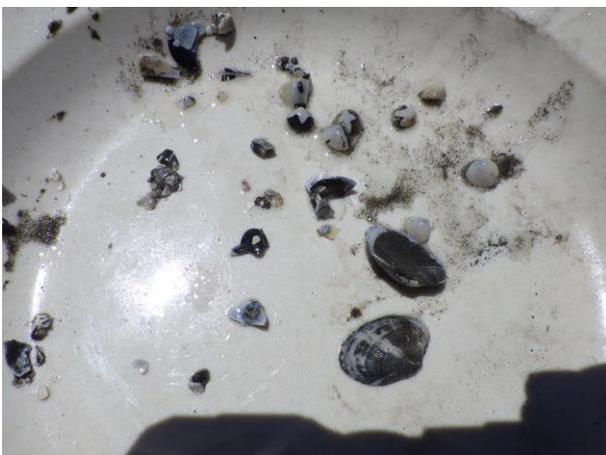
ホンビノスガイ (左)、ハマグリ (右)



「アナジャコは筆で釣る！」

【エリア 7~10】2017年5月に東京湾活き活き研究会で干潟観察会を行った範囲、昨年と比べて何が異なるか、ハマグリはあるのか等を確かめたくて歩いて来た。昨年は船でのアプローチであったが、今年は徒歩。ネットリした泥干潟、牡蠣殻が付着した護岸沿いなど、普段と異なる足元に注意して結構な距離を歩いてたどり着いた。

貝掘りをしている人は、全部で10人くらいであろう、少ない。2名ほど、獲物を見せていただいた。昨年よりは少ないというものの、ハマグリ、ホンビノスガイがいる。自分で採った量からすれば、昨年よりはやや少ないかもしれないが「ハマグリいました」という感じである。アサリの商品サイズは見つからず、小さいものが手網などで少々確認された。





多摩川の河口干潟、かつては海



広大な河口干潟、貝類の現存量は少ない



貝掘り人



オゴノリ



主に、ホンビノスガイとハマグリ



アカニシ、シオフキガイもいる！

今回の漁獲物はハマグリ 5 個、ホンビノスガイ 8 個、シオフキガイ 7 個、アカニシ 1 個、サルボウガイ（アカガイ?） 1 個でした。沖寄りだけでなく岸寄りでもハマグリが採れた。貝類ではシジミ類、アラムシロガイ、カキ類が確認されたがマテガイはいなかった。アナジャコは結構多いようだったが、貝類から見た生物現存量はとても貧弱なものであった。

ハマグリがいたことは喜ばしいことのようにはあるが、かつて多かったアサリ、シオフキガイが今年も極端に少ないことに、干潟生産量の問題が継続していると感じた。

以上